

## 神奈川支部情報

創刊号 発行日 2006年2月26日

発行者 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部

連絡先 〒249-0006逗子市逗子2-11-5-612 松山英司

Tel 046(871)4263 e-mail [mt-h-uk@tbc.t-com.ne.jp](mailto:mt-h-uk@tbc.t-com.ne.jp)

## 再出発！神奈川支部第4回総会報告特集

神奈川支部は2月19日、神奈川県民サポートセンターにおいて第4回総会を開催しました。参加者数は、2002年2月18日の結成総会以来の盛況で、再出発にふさわしい総会を開催することができました。

参加者の皆さんに、応援のメッセージを寄せていただき、暖かく見守っていただいた元中帰連会員の皆さんに、そして各界から応援をいただいた皆さんに心から感謝を申し上げます。

### 第1部

#### 受け継ぐ会の発足経過と現在の役割

##### 本部熊谷事務局長報告

熊谷氏は中帰連の方々が高齢化して、中帰連としての「最後の訪中」といわれた2000年の訪中団の準備段階から手伝い、若者たちにも呼びかけて自らも参加されていました。その際、かつて仇同士、敵同士であった者たちが日中友好、反戦平和のための同志としてお互いに抱き合っている姿に感動して現地で「受け継ぐ会」の立ち上げを宣言したのでした。撫順の奇蹟を受け継ぐ会は熊谷氏を中心とした若者たちの発意と情熱がなかったら発足することはできなかっただろう。

出席者一同はあらためて受け継ぐ会発足の意義をかみ締めながら総会にのぞみました。

### 第2部 第2部 自己紹介と総会

半数以上の方々がお互いに初めて顔をあわせる人たちという総会の構成となり、まずは自己紹介から始めました。出席者たちは海軍軍人を体験された80歳代の方から20歳代の若者まで幅広い年代層の参加でした。

出席者それぞれが受け継ぐ会への思いを語り、見識の深さが示されました。そして今後も継続しての参加の意思が示されました。

総会は時間に押されて短時間でしたが、前段の熊谷報告と自己紹介でお互いが理解しあっていたため本当に心がひとつに解け合った総会となりました。

神奈川支部の代表には松山英司が選出されました。当面は代表一人の体制で運営し、活動を進める中で役員体制を築いていくことも確認されました。

### 第3部 「平和のための闘争こそが正義です」

#### 絵鳩毅さん証言

第3部では、元中帰連の絵鳩毅さんに来ていただいて証言をしていただきました。

絵鳩さんは1913年のお生まれで今年3月には93歳となられます。背筋をびしっ

と伸ばして、張りのある声で話されてい  
る姿から年齢は感じさせられませんでした。

「受け継ぐ会に期待すること」という  
前段のスピーチでは「(受け継ぐ会の皆さん)  
は日本民族の良心です。」「平和のため  
の闘争こそが正義です。」と私たちへの  
大きな期待を寄せていただきました。(ス  
ピーチ部分は別紙に記します)

その後、軍隊に入隊する前の東大在学  
中の話から文部省に就職して自分が心か  
ら尊敬している河合栄治郎先生の思想調  
査をさせられ、耐え切れずに退職したこ  
と、ゆいいつ文部省在職中の良い思い出

は有名なゾルゲ事件でスパイ容疑をかけ  
られて、後に死刑を執行された尾崎秀実  
さんとの出会いだったことなどを話して  
くださいました。短時間の出会いで尾崎  
秀実は本当に大きな人物であったことを  
感じたというエピソードも話されました。

その後第4部の懇親会にも大勢参加し、  
親交を深め合い、第4回総会のすべての  
行事を終了しました。

初めての顔あわせの関係であってもお互いに目的が一致すれば心が通じ合えることが証明され、  
神奈川支部の再出発の礎が築かれた総会となりました。

以下具体的な項目ごとに皆さんへのお知らせ、相談を申し上げます。

### 1、 受け継ぐ会全国総会に参加をお願いします

全国総会は2年に1度の開催です。会員は誰でも参加できることになっています。総会後交流会も  
予定しています。せっかくの機会ですから一人でも多くの方の参加を期待しています。

日時： 3月26日 10時より、16時まで

場所： 豊島区民センター(池袋駅東口徒歩5分)豊島区東池袋1-20-10 電話 03(3964)7601

・参加される方はお手数ですが1週間前くらいまでに松山まで連絡してください。

### 2、 会費納入と名簿作成について

総会で確認したように2005年度は空白期間として2006年度から改めて新規に会費を集めたいと  
考えます。郵便振替用紙による会費納入をお願いします。次回(4月22日)までに名簿も作成したいと  
思います。よろしくお願いします。

### 3、 次回神奈川支部会日程、および議題

日時 4月22日 16時より 18時まで

場所 神奈川県民サポートセンター 会議室302

議題 総会では自己紹介の時間も不足していました。次回はお互いがよく知り合うこと  
と、お互いの考えを出し合って今後の方針を導き出したいと考えています。

### 4、 今後の情報連絡について

情報などの連絡は郵送、メール、電話などによって連絡を行いますが、費用節約のために皆さん  
のご了解がいただければメールアドレスのある方はこの情報以降はすべてメールで送ります。

支部情報「お知らせ」の続きです。

① 会費の件ですが、2005年度に振り込まれた方は06年度会費として取り扱いします。なお、支部総会の際に説明しましたが会費の値上げが検討されています。じつは今まで一人2000円の会費を全額支部に返して支部活動を促進してきました。本部の運営は元中帰連の方たちが受け継ぐ会の「特別会員」として一般会員よりも多くの会費を支払ってこられたのでその分で本部経費を賄ってきたのですが、中帰連の方々が年を重ねられて、本部の運営に支障来す段階に立ち至っています。したがって一人3000円として内1000円分を本部に納める、ということを検討しています。

以下の文書は本部運営委員会への報告文書です。

### 神奈川支部第4回総会報告

第4回神奈川支部総会を2月19日、神奈川県民センターで開催しました。埼玉、東京支部からも応援に駆けつけていただきて総計22名の出席により盛大に開催することができました。本部運営委員会と各支部の皆さんのご協力に感謝します。

以下具体的な項目ごとに報告します。

#### 1、総会全体の運営について

①、出席者は半数以上の方が初めての出席で、年代層は海軍経験者の安島さんの80歳代から20歳代まで幅広く、それでも一つに解けて会が成立していました。

②、総会は3部に分けて行われました。第1部で熊谷事務局長から「受け継ぐ会の発足経過と現在の役割」と題して報告をしていただきました。2000年の訪中の手伝いから訪中の過程で受け継ぐ会結成を宣言したときの思いから始まって、今日受け継ぐ会の果たしている役割までの話は、初めて聞く人も多く、皆さん真剣に聞き入っていました。

③、第2部は総会と言うことで経過、方針から会計報告、予算案まで一気に報告したのですが、前段の自己紹介で時間が経過して短時間しか報告できませんでした。ですが、前段の熊谷事務局長の話と各自の自己紹介での受け継ぐ会への関心の深さが示され、参加者皆さんが継続しての参加の意志が示されたため、満場一致で方針、予算、代表選出が確認され、再出発にふさわしいスタートができました。

④、第3部は絵鳩毅さんに来ていただきて、証言を聞かせていただきました。最初に「受け継ぐ会に期待すること」という議題でスピーチをいただき、皆さんからの質問に応えていただきながら証言を続けました。お話しの詳しい内容は別途報告しますが、涙を流して中国の寛大判決に感謝して日中友好と反戦平和を誓った同志が帰国後中帰連が20年間も分裂しあるにののしり会った醜い争いから「覆水盆

に返らず」の格言を乗り越えて再統一を果たしてきた貴重な体験と、(受け継ぐ会に参加している)「皆さんは時代の良心です」と大きな期待を寄せていただきました。この最初の10分少々の話しの意味は大きなものですし、神奈川支部の今後の道しるべにしたいと思います。

## 2、準備過程での教訓

①、準備の過程で多くの方に案内状を送りました。案内状には全員に返信用のはがきを同封しておきました。高橋さんのご指導もありまして神奈川在住の中帰連の方たち全員にも発送しました。残念ながら亡くなられていた方、宛先不明で返送されてきた方もおられました。ですが多く方から応援と激励のメッセージをいただきました。どのはがきをみても本当にうれしくなるような中味ばかりでした。

たしかに出席はいただけませんでしたが、皆さんの消息が少しづつでも判明し受け継ぐ会にまだまだ大きな期待を寄せさせていただいていることがわかつただけでも大きな成果だと思います。消息がわかった方々にはまだまだ元気でいていただくために何らかの形で接点を持ちたいと思います。当面は神奈川支部の動きなどの情報を送りたいと思います。私たちの活動が中帰連の方たちがこれからもますます元気に生かれるための励みに少しでもなっていただければ受け継ぐ会の私たちにとってもうれしいことです。

中帰連以外の方からもうれしい激励と応援をいただいています。出席したいがスケジュールの都合で残念だ、という返事もありました。返事を返してくれた人たちはこれからも情報発送など接点を継続しながら呼びかければ、神奈川支部はまだ拡大ができると思います。

\*本日の運営委員会は前々からのスケジュールが重なって出席できませんので、申しわけありません。以上簡単に神奈川支部総会の報告をします。

数年にわって、神奈川支部内の論議に運営委員会の皆さんにもつき合わせてしまいました。足を引っ張るばかりで申し訳ありませんでした。今回の総会ですっきりと再スタートが切れました。本当の意味でこれからが勝負です。総会参加者はそれぞれ強い意思があり、継続した参加の意志も示せっていて、またそれぞれ個性もありますが、充分論議をしながら進めていけば各支部の皆さんと手を携えていけると思います。直ぐには追いつきませんが着実に前に歩いていきます。

2月24日

神奈川支部代表 松山英司

06年2月19日神奈川支部第4回総会後 絵鳩毅さんの証言（参加者22名）

<神奈川県民サポートセンター604号室>

当日は絵鳩さんの話を始めて聞く人、何回か聞いた経験のある人など、そしてお互いが初めて顔をあわせる人たちが大勢出席していることから、絵鳩さんには「受け継ぐ会に期待すること」という議題でスピーチをいただいてその後質問の時間を多くとる、という設定で行いました。

### **撫順の奇蹟を受け継ぐ会に期待すること**

本日は神奈川支部の記念すべ新生総会にお招きいただきましてありがとうございます。撫順の奇蹟を受け継ぐ会特別会員の絵鳩です。僭越ですが私見を述べさせていただいて祝辞に代えたいと思います。

思うに、人がつくるすべての団体や個人には常に意見の対立はつきものです。そこで、（その対立は）通常の場合はその会を前進する力となります。しかし、ここに醜い私情が絡まりますと逆に組織を弱体化させ、やがては崩壊に導く原因となります。過去私が所属していた中国帰還者連絡会にもひとつの限界がありました。それは撫順先般管理所で受けた想像を絶する待遇の中で、人間的良心に目覚めて過去の犯したそれぞれの犯した罪を死に値するものとして中国人民の前にことごとく暴露し、謝罪をしたこと、それは釈放されたわれわれの後半生、罪の償いに生涯を捧げるという共通の決意でもありました。これをわれわれは認罪と呼びます。

この認罪を原点として昭和32年にスタートしたわれわれの会は当初2つの目的を持っていました。1つは日中友好と反戦平和のための政治闘争、もう1つはわれわれ11年間にわたる抑留生活の保障要求という経済闘争、この2つの目標を掲げてスタートしました。

しかし当初からこの目標のいずれに重点を置くかについて意見の対立がありました。それが、やがて原点から離れて指導者間の権力抗争という様相を呈してきました。そして昭和41年に日本の日中友好協会が日本共産党系と社会党系グループに分裂しました。これに連動してわが会ももろくも分裂してしまいました。1つは社会党系の「中帰連（正統）」と言い、もう1つは共産党系の「中帰連」でした。そして「正統」側は「中帰連」の同胞を「反中分子」と罵り、また反対に「中帰連」側は「正統」側を「中国一辺倒分子」と罵りあう分裂状態が20年間続いたのです。

分裂して4年後、昭和47年ですが、幸いにして中国交正常化が成立しました。そしてそれを契機に分裂した会員の多くから「再統一しよう」という機運が高

またのです。そしてようやく昭和 61 年に至って会は再統一を果たしたわけですが、よく言われることですが“覆水盆に返らず”、すなわち器からこぼれた水は決して元には戻らないという格言があります。この一般通念を見事打ち破つて再統一を果たしました。この再統一はその後の平和と日中友好のための活動を飛躍的に高めることができました。

今日ここにお集まりの皆さんはわれわれと違って、境遇も人生体験もおそらくさまざまな方たちだろうと思います。その上、われわれのように侵略戦争に直接参加はされていません。したがってわれわれのように厳密な、直接的な意味での戦争責任はありません。しかし皆さんに戦争責任が皆無である、と言いたい切れるでしょうか。私はそうは思いません。なぜならばあなた方も明治維新以来 100 年間にわたってアジア諸国を征服して人的、物的に莫大な損害を与えた日本民族の一員であることには間違いないからです。

したがってその意味での戦争責任の一端はある、と思います。ましてや戦後 60 年の今日、未だに日本政府がかかる戦争の非を認めず、謝罪を行っていないという現実から考えればなおさらである、と考えます。ここにお集まりの皆さんは「時代の良心」であると私は理解しています。どうか負わされた戦争責任について思いをこらし、それを皆さんのがんの原点として強く、広く団結されて日本民族に負わされた戦争責任を果たしていただきたいと思います。

この未済の戦争責任を果たすということの当面の目標は、いうまでもなく再び戦争への道を企み、中国と韓国との政治の政治摩擦を深刻化していっている小泉政権との対決であると考えます。彼は世界でもっとも凶悪な戦争挑発者であり、戦争放火魔であるブッシュ政権のもっとも忠実な下僕と成り下がっている。自民党の長年の念願である憲法改悪を実現して、日本を再び戦争のできる大国にしようと、そういう野望を現実の視野の中に捕らえようとしている。

さらにその地ならしとして教育基本法を改悪して、かってのような戦争のための教育を、次代を担う児童たちに押し付けようとしています。このような陰謀を許せば日本は必ず世界の孤児になります。

撫順の奇蹟を受け継ぐ会の皆さんはどうぞこの小泉政権を打倒してかこの侵略戦争の非を認め、世界に向かって謝罪しうる、平和の大道を突き進むというそのような政権を打ち立ててほしいと考えます。

今世界人類の 60 億人の世界人民が等しく願うのは世界平和です。したがって**平和のための闘争こそが正義です**。皆さんはさまざまご意見をお持ちだろうとは思いますが、個々の異なる意見の小異を捨てて平和のための闘争、という正義の大道についていただきたい。ますます強く、広く団結をしていかれることを説に希望します。最後に皆様方のますますの健康と、一層の団結と、一層のご奮闘を祈って最初の話を終わります。